2013年07月01日 中日新聞 朝刊 17頁

富山出身 室井滋さんに聞く

たっぷり準備 雪国の知恵

意外な人が地震や台風など大規模な災害に備えていたりする。あまり知られていないが、女優の室井滋さんもその一人。就寝前にはタブレット型端末で地震情報を収集し、自宅には飲料水や食料を十分にためている。なぜ、地震に備えるのか。室井さんに聞いた。

（聞き手・中村禎一郎、相坂穣）

むろい・しげる　富山県出身。映画「居酒屋ゆうれい」「のど自慢」「ヴィヨンの妻」などで映画賞を多数受賞。著書も多く、新刊「ウリオ」を7月中旬発売予定。現在、全国各地でしげちゃん一座絵本ライブを開催している。8日スタートのドラマ「名もなき毒」（TBS系）や「俳句さく咲く！」（NHK・Eテレ）に出演。

―備えをするようになった理由は？

私の出身は富山県。そんな地震に襲われる土地ではありません。でも雪国なんです。大雪が降るとみんなの家に雪が積もっているのだから、頼る人もいません。

そうなると、自分で何とかしなくちゃいけない。親はすでにいないので、大雪が降ると今も実家に戻って屋根に上り、年に一、二回ともあると思うんです。

今は東京に住んでいますが、この土地にどんな災害があるかと考えると、やはり地震。お金や手間がかかるかもしれないけれど、備えることは、地震と火山の国に生まれた私たちの宿命ではないでしょうか。

―自宅ではどのような備えをしていますか。

水ならば二〇〇のペットボトル十箱置いている前に庭の木に対策をします。計六十本、一百二十〇〇ため、古い物から順に使っています。多くの家に保存する気質がもともとあるんです。

今は東京に住んでいますが、この土地にどんな災害があるかと考えると、やはり地震。お金や手間がかかるかもしれないけれど、備えることは、地震と火山の国に生まれた私たちの宿命ではないでしょうか。

―自宅ではどのような備えをしていますか。

水ならば二〇〇のペットボトル十箱置いている